

教授

目野 郁子

■ 学歴

1. 1982 年 福岡県立福岡女子大学家政学部 卒業

■ 学位

1. 1994 年 九州大学 博士 (医学)

■ 研究分野

1. 病原微生物学
2. 免疫学

■ 研究キーワード

1. 病原微生物
2. 感染症
3. 感染対策
4. ワクチン
5. 免疫

■ 研究課題

1. 感染症の予防と感染制御対策：予防接種制度の変更にともなう定期予防接種対象疾病の概要とワクチンについて新しい知見をもとに図書の改訂にむけて検討を行う。
2. 本学 1 年生を対象に配布している健康管理カルテの有用性について継続し検討を行う。

■ 担当授業科目

1. 感染と免疫（前期）（看護学科）必須
2. 生物と生命科学（前期）（看護学科）選択
3. 生物と生命科学（前期）（福祉学科）選択
4. 疾病学各論Ⅱ（前期）（看護学科）必須
5. 初年次セミナーⅡ（後期）（看護学科）必須
6. 微生物学（後期）（福祉学科）選択
7. 女性の心と身体の健康（前期）（大学全学科）必須

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【感染と免疫】
	①ポートフォリオ・「ポイント整理」をまとめる方法について、第 3 回目の講義でモデルを示しな

	がら指導した。また、講義に自身で作成したポートフォリオ・「ポイント整理」を常に持参するよう指示し、講義中にラウンドして整理の状況を確認した。整理の仕方、まとめ方がうまくいってない学生には直接指導した。 ②学内実習においては、医療現場を想起させ感染症の疑いがある患者の検体採取から細菌観察までを自身の体を使い実施した。 ③講義内容を整理するための「ポイント整理」と小テストを組み合わせることで主体的学習を促した。今年度は、正答率が悪い問題について丁寧に解説し、振り返りをさせた。 ④質問は講義中と講義時間外にも積極的にうけるようにした。
2.	授業科目名【生物と生命科学（看護）】 ①1年生の前期科目であることを意識し、高校の生物の基礎知識→解剖学・生理学の知識→疾病の発症要因と、段階をおって講義を組み立てた。難しいと思われる疾病事例は、日常生活で見聞きするものを数例選択し、学生に興味をもたせ学ばせるよう工夫した。 ②ポートフォリオ・「ポイント整理」をまとめる方法を講義で説明し、自身で作成したポートフォリオ・「ポイント整理」を持参するよう指示した。また、整理の状況を確認した。整理の仕方、まとめ方がうまくいってない学生には直接指導した。 ③理解が難しい講義内容については、学生同士で話し合いの場を設ける、それでも理解できなかった場合には、再度講義を行い、内容理解ができるようにし繰り返し学ぶ場を提供した。
3.	授業科目名【生物と生命科学（福祉・英語・観光文化）】 ①講義内容は、高校で学ぶ生物の基礎知識をもとに、ヒトの生体に焦点をあてる講義内容とした。興味を持たせるために日常生活の中で見聞きする疾患を事例に、高校の生物基礎→解剖学・生理学の知識→疾病の発症要因と、段階を追って講義を行った。加えて、1疾患をモデルに講義を行い、その内容を振り返らせ、課題としてまとめ提出するよう指示した。 ②科目内容に苦手意識を持たせない工夫としては、講義後に必ず振り返りの時間を設ける、また、講義中にラウンドして一人一人に声かけを行い質問をうける、また、こちらから質問するなど、理解度の把握をしながら講義を進行させた。 ③講義内容を整理するための「ポイント整理」は、小テストと組み合わせることで、積極的に学習に取り組むように促した。また、正答率の悪い問題は解説を行い、学習意欲を高めるように心がけた。
4.	授業科目名【疾病学各論Ⅱ（看護学科）】 ① 主担当講義として4コマを担当した。テーマは、感染症で全身感染症、呼吸器感染症、消化器感染症、そして、感染症予防法について講義を実施した。いずれの内容も病態について理解を促すためにポイントをまとめて図表を作成し、スライドを使い説明した。 ② 加えて、感染症予防法については、看護師国家試験を意識し、院内感染、消毒法・消毒剤について教科書を用い丁寧に説明をした。
5.	授業科目名【初年次セミナーⅡ（看護学科）】 ①5人の教員で持つ科目のため、教員間での打ち合わせをした後、教員間で差が出ないよう注意しながら指導を行った。 ② レポートは、例年グループで一つのテーマで章立てをし、各章を各自が担当するという方式をとっていたが、今年は、各自に責任を持たせるために各自がテーマをもち、レポートを作成するようにした。

	③ 「プレゼン発表スキル」についての講義を担当した。プレゼンの良し悪しについて、モデルを示すことで、学生がより良いプレゼンスキルを学べるよう工夫した。また、プレゼン発表会の前段階にミニプレゼンとして練習のための時間を1コマ設けた。
6.	授業科目名【微生物学（福祉学科）】 ① 興味を持たせるために最近の感染症に関するトピックス・事例を織り交ぜ講義を実施した。 ② 教育現場に関連した知識に焦点を当て、学校現場で問題になる感染症を中心に教科書から内容をピックアップして講義を行った。 ③ また、他の教職関連科目と連携させて、学校保健安全法での出席停止期間などを具体例をあげ説明した。 ④ 小テストを2回実施している。正答率の悪い問題については、解説を行い、必ず、振り返りを促すために次の小テスト問題にも問題を加える工夫をした。
7.	授業科目名【女性の心と身体の健康（大学全学科）】 ① 今年度から開講した大学全学科の1年生を対象にした科目である。主担当講義として1コマを担当する。テーマは、「感染症とその予防」で1年生に理解しやすいように身近な疾患モデルをあげて、感染源、感染経路、症状について説明する。そして、そのうえで予防法についての講義を行った。 ② 興味関心を持ってもらうために最新の感染症情報・動向を内容に組み入れた。また、自身の健康を振り返るために過去に罹患した感染症・症状など書きとめ、学生間でディスカッションさせた。 ③ トピックスとして、性感染症・子宮頸がん予防のHPVワクチンについて説明しキャッチアップ接種についての情報を提供した。 ④ 講義に対する質問には、丁寧に応答した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1987年4月	日本細菌学会	
2.	1996年4月	日本感染症学会	
3.	2000年4月	日本小児保健協会	
4.	2004年4月	日本感染症学会	
5.	2016年4月	日本ワクチン学会	
6.	2024年4月	日本私立看護系大学協会	西南女学院大学看護学科代表

■ 研究業績等に関する事項（2024年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）					
1.	なし				
（学術論文）					
1.	2025.3	健康管理ツールとし	共	西南女学院大学紀要 Vol.29	①大学における学生への健康支援の一助となることを目的に、学生自身が健康

		ての「健康管理カルテ」を用いた大学生への健康支援 －利用状況と運用に関する考察			を意識し管理するツールとして、本学独自の「健康管理カルテ」を作成し入学生に配布し、その利用調査を行った。その利用状況から、学生の健康記録の保管手段として、また、正しい情報を得る手段となっていた。今後は健康管理カルテの配布に留まらず、継続的に情報発信し、学生自身による健康管理を促す取り組みが課題となった。 ②共著者：樋口由貴子，水貝洵子，山田恵，高崎智子，目野郁子 ④ p 47～56
2.					
(翻訳)					
1.	なし				
(学会発表)					
1.	なし				

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	なし			

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	なし			

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2023年5月1日～2027年4月30日	福岡県食品安全・安心委員会	有識者委員
2.	2024年10月7日	西南女学院中学・高等学校の5年生を対象に「看護学科での学び」について講義を行う。	高大連携講座講師

3.	2024 年 2 月 7 日	北九州市市民カレッジにおいて、免疫低下により発症するウイルス感染症「带状疱疹」をテーマに予防法も含め「带状疱疹」の発症の仕組み、症状などについて講演する。	北九州市民カレッジ講師
----	----------------	---	-------------

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2025 年 4 月～現在に至る	西南女学院大学 助産別科	別科長
2.	2024 年 4 月～現在に至る	西南女学院大学保健福祉学部 看護学科	学科長
3.	2024 年 4 月～現在に至る	西南女学院大学 看護キャリア支援センター	運営委員
4.	2023 年 4 月～現在に至る	西南女学院評議会	評議委員
5.	2011 年～現在に至る	学生の健康支援：保健室と協働 しワクチンで予防可能な感染症 について予防接種手帳配布・抗 体検査結果配布、予防接種が必 要な学生には個別に接種勧奨を 行う。	大学学生健康支援メンバー
6.	2003 年 4 月～ 現在に至る	保健福祉学部附属保健福祉学研 究所	運営委員